

「ふるさと時」への愛着と誇りを育むふるさと学習

～「ふるさと時のかがやきを発信しよう」の活動を通して～

大垣市立時小学校 教諭 篠田 耕佑

概要

時地区には、たくさんの魅力や自慢、よさがある。子どもたちは低学年の頃から「ふるさと時」に親しんでいる。卒業時には、時地区へ愛着と誇りをさらに高めて、自信をもって様々な状況を乗り越えることができるようになってほしいと願っている。そこで、今年度は5・6年生の「時のかがやき（魅力）を発信する」活動を通して、「自己の生き方を考え、主体的に活動できる子」を目指し、実践を進めることにした。初めに、「子どもの実態」と「時地区の特色」から探究課題の設定を行う。次に、複数の題材（探究活動）を位置付け、自己理解や他者理解をしながら追究を深める。その中で見つけた事実や考えた人々の思いを比較したり分類したりして、自分の考えを深め、「時のかがやき」を捉えるようにする。最後に、子どもたちが捉えたことを自分の言葉で表現し、発信する場を位置付ける。この実践を通して、「時のかがやき」を自分事として捉え、「たくさんの人に知ってもらいたい。他校の人にガイドツアーをしたい。」と主体的に発信しようとする子どもになった。

1 主題設定の理由

「長範みそはおいしいよ。」「湯葉神社には天然記念物の大きな杉の木があるよ。」など、日頃から時小の子どもは時の地域にある素敵なところを語り、親しんでいる。

時の地域には、豊かな自然を生かしコミュニティをつくって、積極的に町づくりに取り組まれる方々が多くいらっしゃる。そんな時のよさや伝統の素晴らしさを、「時のかがやき」と名づけ、5・6年生の9名の子どもたちと共に追究することとした。「時のかがやき」を追究する過程を通して、自分たちの住む時地区へ愛着と誇りをもち、自信をもって様々な状況を乗り越えることを目指している。願う姿は、『「ふるさと時のかがやき」を実感し、自己の生き方を考え、主体的に活動できる子』とした。

2 研究仮説

【研究仮説】

「ふるさと時のかがやき」を実感できる探究課題を設定し、自己理解や他者理解をしながら探究活動を繰り返し行い、発信する場を位置付ければ、ふるさと時のかがやきと関わりながら、自己の生き方を考え、主体的に活動しようとする子に育つ。

3 研究内容

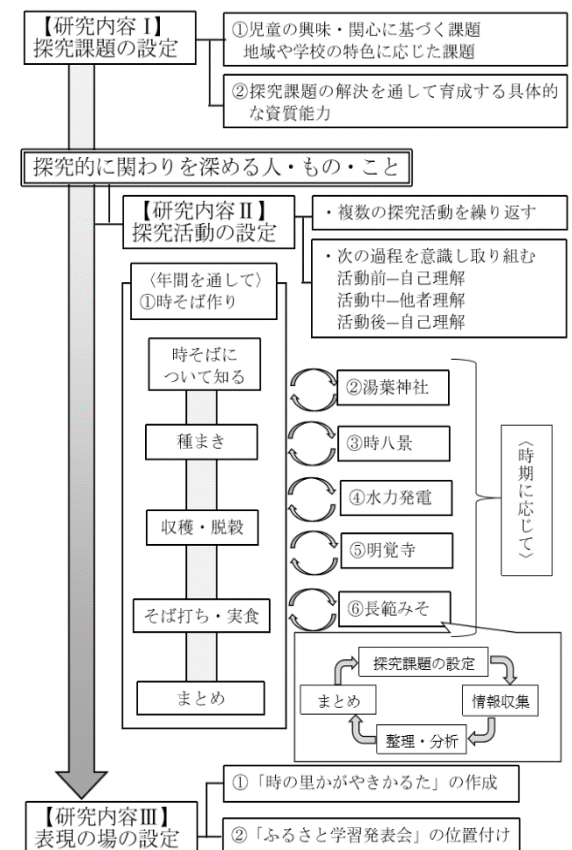
研究内容Ⅰ～Ⅲを設定し、図1の計画を立案して、実践した。

【研究内容Ⅰ】 地域の方々の思いや願いを実感できる探究課題の設定

【研究内容Ⅱ】 地域の方々の思いや願いを実感できる探究活動の設定

【研究内容Ⅲ】 ふるさと時の愛着と誇りを高める表現の場の設定

【図1：研究内容の構想図】



4 研究実践

(1)【研究内容 I】地域の方々の思いや願いを実感できる探究課題の設定

今年度5・6年生の総合的な学習の時間のテーマは『「ふるさと時のかがやき」を発信しよう』とし、次の①と②をふまえて探究課題を設定した。

①「児童の興味・関心に基づく課題」

A 児：夏には、牧田川で魚が獲れるし、泳ぐのも楽しいよね。冬は、雪がたくさん積もるから、雪合戦とか、かまくらとか……。楽しみだなあ。

A 児は、目を輝かせて語った。そんな A 児には次のような素晴らしさがあると捉えている。

○時の自然や活動に愛着をもち、地域のよさを味わっている。

○地域のよさを捉え、伝えることができる。

このように、学級内でこれまでの経験から見つけている「ふるさと時のかがやき」を出し合い、以下のような3つの項目で整理した。

【歴史】	【自然】	【文化・産業】
牧田川 烏帽子岳 シブナシガヤ スギ・ 百間桜・雪 イヌマキ 等	唯願寺 湯葉神社 明覚寺 専想寺 農業 祖光寺石仏群 時八景 等	長範みそ 時山炭 時山刺し子 時山発電所 時そば はちみつ 等

そして、今後自分は「時のかがやき」をどのようにしていきたいかという思いを交流した。

子どもたちが思ったこと	よさや課題
<ul style="list-style-type: none"> ・時にはたくさんの自然があるから、これからも大切にしたい。 ・明覚寺や唯願寺のように、昔から大切にされてきているから、これからも大切にしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○未来へ残していく思いがある。 ●どのように歴史や自然が守られてきたかが、はっきりしていない。 ●どのように未来に繋いでいくかがはっきりしていない。

以上から、児童の実態を次のように分析した。

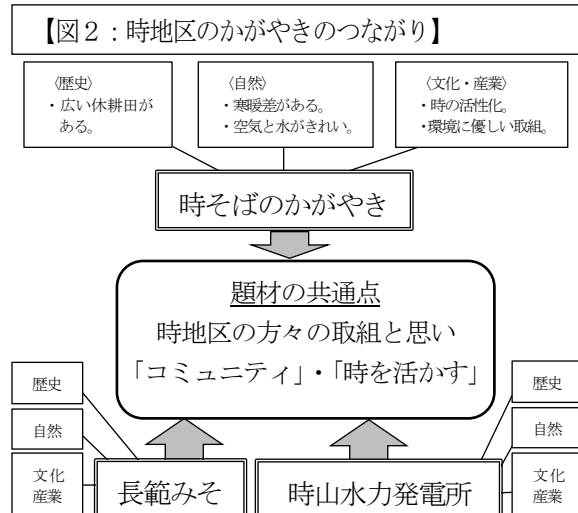
- 「時のかがやき」に親しむ機会が多いが、これまでの経験に個人差がある。
- 受け継がれている歴史を知り、未来に向かって考えた取組を推進している人々の思いまでは気付いていない。

②「地域や学校の特色に応じた課題」

子どもたちは、「時のかがやき」は「長い歴史」や「豊かな自然」、多様な文化・産業」だと考えて

いる。そこには、図2のように「積極的に町づくりに取り組まれる人々」が関わっている。ぜひ、子どもたちには、そんな時地区の人々の思いを考えること（他者理解）で、自己の生き方を考えること（自己理解）に結び付けたい。

そこで、「人々の取組や思いも時のかがやき」と実感することができるように、地域の人々と一緒に活動したり、直接話を聞いて疑問を解決したりする場を意図的に位置付ける。



①と②より、今年度の探究課題を設定した。

- ・豊かな自然や歴史を守る人々の苦労や喜び、生きがいを考えよう。
- ・未来に生かす取組を考えよう。

さらに、子どもたちと学習を進める中で、次のような課題も明らかとなった。

- 活動に受け身になり、主体的に解決をする姿が少ない。

→子どもたちの関心と地域の特色を活かした課題を設定し、探究活動を充実させる。

- 地域の取組を自分事として捉える姿が少ない。

→他者理解や自己理解を繰り返し行うことができる探究活動や発表の場を位置付ける。

子どもたちのよさや課題から、目指す資質・能力について、次の3つを設定した。

①時には、地域の方々が「時のために」という思いをもち、共存したり持続可能な活動を考えたりするというかがやきを理解する。【知・技】

②時の「自然・文化・歴史」を体験する探究活動を繰り返すことで、「時のかがやき」を自分の言葉でまとめる。【思・表・判】

③探究活動で自己理解や他者理解を深めることで、自己の生き方を考える。【人間性】

(2) 【研究内容Ⅱ】 地域の方々の思いや願いを実感できる探究活動の設定

研究内容Ⅰの探究課題を解決するために、複数の探究活動を位置付け、課題追究が深められるように計画し、実践した。探究活動の主な題材のうち、①「時そば」・②「時山発電所」・③「長範みそ」の実践について述べる。

①時そば（6～12月）

（ねらい）

耕作放棄地を野生動物から守り、地域の仲間づくりや他県からの体験活動に活かして取り組む方々の思いを実感する。

（探究活動）

(i) 探究課題の設定

地域講師の講話から、次のことを考えた。

- ・そばは野生の動物の被害が少なく、見ても美しいからそば作りを進めたんだ。
- ・時地区の寒暖差が大きいという気候に合っているから始めたんだ。
- ・なぜ一生懸命取り組んでいるんだろう。これらの考えから、探究課題の設定を図った。

課題：一生懸命そば作りに取り組むかがやきは何だろうか。

(ii) 情報収集

- ・地域講師Bさんから講話を聞く。
- ・自分の家族に話を聞く。
- ・そば作りの体験を行う。（種まき・脱穀・そば打ち・実食）

体験を通して交流したこと。

- | | |
|-----|--|
| 種まき | <ul style="list-style-type: none"> ・そばを育てたことはないな。 ・家でもそばの種をまいて育ててみよう。 |
| 脱穀 | <ul style="list-style-type: none"> ・こんなにたくさんのそばから獲れる実って、こんなに少ないんだ。大変だけど、みんなとやると、楽しくできた。 |

- | | |
|------|--|
| そば打ち | <ul style="list-style-type: none"> ・脱穀の作業は難しいな。時そばの会の方々は、とても上手いな。 |
| 実食 | <ul style="list-style-type: none"> ・そばの実をすりつぶすことで、さらに少なくなった。そばを作るためには、たくさんのそばを育てないといけないことが分かった。 |

【写真1：唐箕（脱穀）】



だ。時の地域には、そばがぴったりの作物だということが分かった。

(iii) 整理・分析

情報収集したことを、研究内容Ⅰにある「歴史」「自然」「文化・産業」の3つの項目で整理した。

<p>【歴史】 休耕地がたくさんある。以前は畑などに使われていたが、今は荒地地になっている。この場所をそのままではもったいないと思ひ、活用方法を考えたことが分かった。</p>	<p>【自然】 時はおいしいそばが育つのに条件が適している。空気や水がきれいだからおいしくなる。白いそばの花が青い空や烏帽子岳に合っている。</p>	<p>【文化・産業】 そばは、水をやらずに短期間で収穫できるよさがある。害獣にも食べられることなく、おいしいそばの実を作ることができる。無農薬なこともすごい。</p>
--	---	--

時のために時そばの開発を進め、作り続けることがすごい。時のために、喜んでもらおうとする思いが素敵だ。大変な作業もあるけれど、みんな協力しての作業は楽しかった。

そばは育てることが簡単だったり、短期間でできたりするけれど、毎日見に行くことはやっぱり大変だ。たくさん育てても少ししか取れない。自分には、ここまで育てることは難しい。

時にある荒地を活かして、おいしいそば作りを進めているのは、時がさらに活性化することを願っていることが分かったよ。時のよさを活かして、活動を工夫し取り組んでいることがすごい。

時のよさを活かし、時そばの会の方々の工夫や努力があるからこそ、おいしいそばができることを伝えた。このおいしいそばをどんどん広げていきたい。

(iv) まとめ

- ・「おいしい物を味わってもらいたい。食べてもらいたい。笑顔が見たい。」という思いや人に喜んでもらえることが喜びになっている。
- ・「時の自然や美しい景色があつてこそそのそばで、時のよさを知ってもらいたい」という思いが伝わってくる。
- ・「害獣から時の町を守り、町づくりや仲間を大切にしたいと考えている。
- ・大変なこともあるけれど、みんなで力を合わせると「時そば」のように時の自慢ができることが分かった。自分たちの思いを強くもって、仲間のことを考え、協力し、活動していきたい。誰かが喜ぶ姿を見て、一緒に喜ぶことができる自分になりたい。

②時山発電所（11月）

（ねらい）

100年前の人々の考えと行動力の素晴らしさや、環境に優しい取組を推進する人々の思いを実感する。

〈探究活動〉

（i）探究課題の設定

課題：どうして時山に水力発電所を稼働させたのだろうか。

（ii）情報収集

- ・地域講師Bさんの講話を聞く。
- ・地域講師Cさんの講話を聞く。
- ・家族に聞く。
- ・現地に行く。
- ・ネットで調べる。

（iii）整理・分析

<p>【歴史】 100年前から時のために電気を作ろうと考え、行動していたことがすごい。</p>	<p>【自然】 谷が急な傾斜をしているから、水力発電に活かすことができるんだ。見つけたこともすごい。</p>	<p>【文化・産業】 少水力発電は環境に優しい発電ができるから、これからさらに大切にしていきたいことだ。</p>
<p>時のことを考え、時にある物を活かすことがすごい。自然を生かすことは時にしかできないことだ。</p>	<p>100年前に考え、自分たちで生活をよりよくしていこうとすることがすごい。自分では考えつかなかった。</p>	
<p>今も100年前も、時の人のために活動しているところや時の環境を活かして取り組んでいる所が同じだ。</p>		
<p>昔から考え計画し進めてきたことがすごい。このことを、発表し伝えたい。</p>		

（iv）まとめ

- ・100年前の人たちが、現在にも使える場所を見つたり、作ったりすることができたのは、時の人たちのために電気を作ろうという強い思いがあったから。
- ・時の地形や自然だからこそできる環境を考えた再生可能エネルギー（水力発電）を進めることがすごい。
- ・SDGsについて考え、自分にできることから取り組んでいきたい。まずは、目標を考え、目標に向かってやりぬくことができるようにする。

③長範みそ（1月）

（ねらい）

住鹿地区で作られていた長範みそを復活させ、地域で作る楽しさと苦労を実感し、未来へ生かす取組について考える。

〈探究活動〉

（i）探究課題の設定

課題：なぜそんなに一生懸命長範みそ作りができるのだろうか。

（ii）情報収集

- ・地域講師Eさんの講話を聞く。
- ・家族に聞く。
- ・ネットで調べる。
- ・長範みそ作りの仕込みの体験をする。

（iii）整理・分析

<p>【歴史】 住鹿で40年前に作られていた長範みそを復活させ、長範みそ部会の方々と作り続けていることがすごい。</p>	<p>【自然】 「時のお米を使いたい。」という思いで、長範みその開発を進めていったんだ。</p>	<p>【文化・産業】 時の人たちに喜んでもらえるよう、おいしい味噌を作っているんだ。時のお土産になるよう、取り組んでいることが分かった。</p>
<p>時のために長範みその開発を進め、作り続けていることがすごい。これが時のかがやきだ。</p>	<p>米麴と大豆を混ぜる時は、とても力が入るし、疲れる。毎日作業するのは大変だ。</p>	
<p>力仕事は大変だったけれど、みんなで協力しての作業は楽しかった。仲間づくりとしても素敵な活動だ。</p>		
<p>「喜んでもらいたい。」や「時のことを知ってもらいたい。」と思えるから、がんばることができ、楽しく活動ができ、おいしい味噌ができることを伝えたい。</p>		

（iv）まとめ

- ・みそ作りの方々は、時の人たちに喜んでほしい気持ちや地元の活性化のための願いもって取り組んでいるから、一生懸命に楽しく活動ができる。
- ・時のためにみんなで協力するから、長範みそはとてもおいしく、時の自慢になっている。私も、全校のことを考えて、協力して、活動し自分たちの学級の自慢をつくりたい。

【写真2：長範みそ作り体験】



(3)【研究内容Ⅲ】ふるさと時の愛着と誇りを高める表現の場の設定

これまでの学習の成果をまとめ、発信する場として、次の3つを位置付けた。

①「時地区オリエンテーリング」を通して

11月に、時のかがやきの調査を1～4年生22名に行った。結果は次のようである。

- ・時山文化伝承館、唯願寺、湯葉神社 【歴史】
- ・牧田川、烏帽子岳、百間桜、蛍、アマゴ【自然】
- ・舞鶴、蜂蜜、クッキー、椎茸 【文化・産業】

○時地区にある建物や自然を捉えている。

●建物や自然を守る人々に目を向けていない。

そこで、5・6年生は全校での時地区オリエンテーリングの中で、「歴史」や「自然」、「文化・産業」に加え、「人」に触れながら、「時のかがやき」を伝えることにした。その際、図3の「時の里かがやきMAP」を作り、紹介した。

図3:「時のかがやき」を整理した「時の里かがやきMAP」



(例) 50年前のしもかげ橋の紹介

<p>・昔は木でできています。な<small>←</small>く<small>→</small>て渡るのが怖いです。だから、工事が始まり安全に渡ることができるようになりました。橋が完成して、この人たちはどう思っていると思いますか。</p>	<p>→ 当時の人たちの思いを伝える。</p> <p>→ 時山の人々のために行ったりという「かがやき」を伝える。</p>
--	--

5・6年生の子どもたちは、1～4年生に、「ふるさと時のかがやき」として、「時山の人々のために行ったり」を伝えた。この姿は、これまでの探究活動を通して、「ふるさと時のかがやき」には、「時」に対して、地域の方々の努力や苦勞、「時のためにできることをしたい」などの思いがあることを捉えつつあると考える。

②「時の里かがやきかるたづくり」を通して

7月に、「時の里かがやきかるた」の作成を行った。探究活動後の12月に、再度「時の里かがや

きかるた」の読み札の作成を行ったところ、次のような変容が見られた。

活動前 (7月)	活動後 (12月)
おいしいなあ。味とにおいが最高の長範みそ	時のお土産として心のよりどころ 時のお米で協力してつくったみそは笑顔いっぱい
イヌマキの木が高い明覚寺	門や石垣 イヌマキにたくさんの物語が詰まっている明覚寺 この物語を語り続けよう
100年前につくられた水力発電所	時のために 環境のために考えぬいて 時の未来を明るく照らす 時山発電所

これらの変容から、「時の里かがやきかるた」には次のようなよさがある。

- ・理解した「時のかがやき」を入れることができ、自分の学びを自覚することができる。
- ・探究活動を通して実感した「時のかがやき」を自分の言葉で表現することができる。
- ・「時の里かがやきかるた」の作成を通して、再度地域の方や自分の思いを振り返り、考えを深めることができる。
- ・「時の里かがやきかるた」は多くの人が楽しみながら、「時のかがやき」を発信できる。

これらは、子どもたちが複数の探究活動を繰り返しながら、人々の思いを受け止め、感じたことを表現したいと主体的に取り組んだ成果と言える。

③「ふるさと学習発表会」を通して

ふるさと時のかがやきを発信する場を次のように計画している。

ふるさと学習発表

目的: これまで学習してきたことをまとめ、下学年に引き継ぐことができる

方法: プレゼンテーション・ポスター
パンフレット・新聞 等

内容: 一人一人が探究活動を行ってきた題材でまとめ、「時のかがやき」を発表する。下学年や地域の方に向けて行う。1年間の学びを通して考えたことを伝える。

その後、パンフレット等を地域事務所などに依頼して、置かせてもらうことを考えている。

5 研究のまとめ

A 児の1年間の振り返りを目指す資質・能力か

ら分析した。

㉑1 【知・技】

「時そば」のかがやきは、味や香り、見た目の美しさなどがあった。時の寒暖差のある気候やされいな空気や水を生かし、「時そばの会」の方々が協力して取り組むから、おいしいそばができることが分かった。この「時そば」は時だからこそできるすばらしいものだ。

㉑1 【思・表・判】

時そばの脱穀の体験をしてみて、みんなで活動することは楽しかったけれど、苦労もたくさんあることが分かった。思ったよりもそばの実が少なく広い場所で育てないといけないことも分かった。おいしいそばを食べるためにはたくさんの苦労があるんだ。

㉑1 【人間性】

その後長範みそ作りの体験もしてみて、「時そばのかがやき」と同じところがある。それは、「同じ願いをもってみんなで楽しく仲良く活動していること」と「時のよさを活かした物をいつまでも途切れることなく、後世に残したいという思い」だと思った。

時のためにという思いでつながっているからこそ、時の自慢で、時のブランドができていると思った。

㉑2 【知・技】

また、さらに調べていくことで、時そばや長範みそなどの活動は、SDGsと関わって、持続可能な社会づくりにもつながっていることが分かった。

㉑2 【思・表・判】

こんなにもすばらしい活動だけど、時には荒れ地があり、人口も少ない。それに、まだまだ時そばや長範みそは知らない人が多いという課題もある。

㉑2 【人間性】

だから、ぼくもいつまでも続いていくように、地域事務所へ提案したりふるさと学習発表会などをしたりして、たくさんの人に知ってもらおうようにしたい。

・㉑1：よさや苦労の実感。

→㉑2：課題に目を向ける。

・㉑1：「時のかがやき」を自分の言葉で表現。

→㉑2：自分事として考える。決意。

複数の題材を位置付け、探究課題の追究を深めたことで、知識や思考に深まりが見られる。また、「時のかがやき」を理解する時に、他者理解や自己理解を行い、自分の言葉でまとめることで、新たな「時のかがやき」の探究意欲が生まれ、知識や思考が深まっていく。

6 研究の成果と課題

【成果】

○目指す資質・能力である【知識及び技能】と【思考力、判断力、表現力等】、【学びに向かう力、人間性等】のバランスを意識して追究することで、自己の生き方を考え、自己理解を深めることができる。また、このような追究を重ねることで、【学びに向かう力、人間性等】を高めることができる。

○多くの題材で地域の方々と交流や体験を重ね、一人一人の思いを考え、受け止めることができた。それらを、整理・分析しながら、時への熱い思いを実感し、ふるさと時への愛着と誇りを育むことができた。

【課題】

●学校行事や各教科・領域等との関連を図り、横断的・総合的な学習を工夫する。「時のかがやき」を誇りに思い、自信をもって地域の方々と関わる子どもを目指していく。

【参考文献】

- ・小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 平成29年3月
- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 総合的な学習の時間 令和2年3月

A 児の振り返りから次の結果が言える。

・㉑1：「時のかがやき」（過去）の理解。

→㉑2：SDGs（未来）の理解。